

そうじの力だより

VOL.188



支援事例紹介

モノの掃除を通じて、「コトを「そうじ」する
〜ルールを明確化し、ルールを守る風土をつくる〜

香川県琴平町の株式会社「こんびらさん」で親しまれる金刀比羅宮の麓にある、福祉用品のレンタル・販売の社員七人ほどの小さな会社です。

ここで、三年ほど前から「そうじの力」のお手伝いをしています。同社では、物理的な整理・整頓・清掃を行いながら、組織のあり方や運営方法を整えていっています。

主眼を置いていっているのは、「ルールを明確にする」としてその「ルールを守る」風土を作ることです。

これまでは家族経営だったために、色々なものが曖昧で、なあなあでした。それら一つひとつの実態を明らかにし、どうあるべきかを明確にし、それが守れるようにしてきました。

不要物の整理や書類の整理、倉庫内の在庫の整理も、進めてきました。

二年間ほどそうした活動を続けてきましたが、なぜか、今一つピリツとしません。人もなかなか定着せず、入ってきた社員も、すぐに辞めてしまうような状態でした。

そこで、一年ほど前からカンフル剤的に導入したのが、毎朝三〇分間、全員で床磨きをすることでした。この床磨きの目的は、

- ① 毎朝、皆が集まる
 - ② 心を整える
 - ③ ベクトルを合わせる
- という三つです。

業種

柄、お客様からの呼び出しが多く、

なかなか全員が集まれない状態が長く続いていました。朝礼時にも、社員の半数以上が不在ということも珍しくありません。そうなる、自然、コミュニケーションを取るのも難しく、様々な問題も起こっていました。

しかし、この床磨きを導入してから、朝、皆が集まるようになってきました。

徐々に磨いた範囲が広がるにつれ、これまで黒くくすんでいた床面が光り輝き、店内が明るくなってきました。

ただ、一つ問題があり、こうして朝に床磨きをすると、営業に出掛けるのが遅くなってしまうのです。

そこで、皆で話し合った結果、定時



朝の床磨きのようす



蛍光灯が反射する、明るい店内

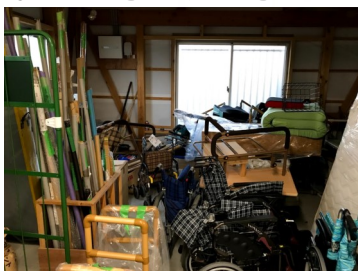
を一時前倒しすることにしました。これが奏功しました。

前倒しすることで、気兼ねなく床磨きに集中できます。電話も、ほとんどかかってくるません。通勤ラッシュを避けられるので、通勤時に道が混まない、というオマケまでつきました。

朝、こうして掃除と朝礼をしっかりと行い、営業にも早く出られる。ここから、いろいろなことがうまく回っていくようになりました。

来たる四月には、同社としてはじめて新卒社員を二人迎えます。これまでは社内では手狭で申し訳ないということ

で、全面的にレイアウトを変更することになりました。と、いつても「スペースは有限です。だから、不要なもの捨て、使える空間を増やすしかない。」



商品や資材の倉庫(ビフォー)



商品や資材の倉庫(アフター)

一年以上使っていないものは、無条件で捨てる、と決めて、どんどん捨てていきました。売れ残って置場に困っていた大型の浴用機器も、思い切つて廃棄しました。



バーゲンセールに出す商品を吟味中

処分しました。

これまでは、およそ在庫管理など出ていかなかったのですが、不良在庫がなくなったことで「見える化」でき、管理がしやすくなりました。

おかげさまで、店内(社内)が広く明るくなりました。それだけでなく、社員さんたちの表情も明るく、ミーティングでも活発な意見が出るようになってきました。決めたルールも、守れるようになってきました。人も、定着してきました。

活動当初、掲げたスローガンが「家業から企業へ」というものでしたが、ようやくそれが実現しつつあります。

小さいながらも、今後の飛躍が期待できる、楽しみな企業です。(小早)

新サービス『環境整備診断』はじめました！御社の「健康状態」を環境整備の観点で診断し、改善策をご提案します。詳しくは弊社ホームページをご覧ください。

今月の読書から

『命がけの証言』清水ともみ(マンガ)＋楊海英(解説) 著
～マンガで描かれる、中国の恐怖の実態～



非常に深刻なテーマですが、マンガで描かれているので、簡単に読むことができます。内容は、まさに驚愕の実態。本書では、ウイグル人たちが、実名でその実態を告白しています。以下、そのまま引用します。

〈私は36歳、ウイグル人です。留学するために来日し、2018年、帰化が認められ日本人になりました。今は通訳などをして働きながら、子育てをしています。いつか故郷の両親に孫の顔を見せたかったけれど、今はそれもかないません。ウイグル人の会話は盗聴されているので、私からは連絡を控え、SNSの投稿を見て家族の無事を見守っていました。ところが2017年、弟の更新が途絶え、悩んだ末に実家に連絡すると、半年前に「勉強

に連れていかれた」とのことでした。つまりそれは、強制収容所に連れていかれたという意味です。〉

〈1990年代後半から、農村部で子供が行方不明になる話はよく耳にしました。中国人の車の後部座席から、袋に入れられたウイグル人の子供が3、4人見つかったというニュースも見ました。〉

〈ウイグル人は地獄の中に住んでいません。安全なはずの日本に居ても、皆生きた心地はしません。「荷物を預かっているから大使館まで取りにきなさい」「上海警察で案件がある。返信しないと、あなたは罪に問われます」などという電話が、時には子供の携帯にまでかかってきます。無言電話や非通知着信など、1分おきにかかってくることもあるのです。〉

〈今の日本は、昔のウイグルと似ていません。日本人は皆、とても優しい。(中略)どうかこの平和な日本を、ウイグルのようにならないで下さい。〉

〈どうか皆様、私たちのことを『ウイグル族』と呼ばないでください。私たちは少数

民族ではありません。ウイグル族と呼ぶことは、私たちを少数民族と印象づけた中国共産党の思惑に寄せられているのです。私たちは、ウイグル人です。〉

〈そして今、世界中の商品の工場が中国にあります。ハイブランドから日用品、ありえないくらい安く販売されている商品。そこでは、多くのウイグル人もほぼ強制的に連れてこられ、奴隷のような過酷な環境で働いていることも多いのです。私は中国の商品は絶対に買いません。〉

〈なぜウイグル人がここまで不幸な目に遭っているのか。すべての原因は、ウイグルが中国共産党の植民地で支配下にあるからです。この不幸を終わらせるには、私は国を再建するしかないと思っています。日本企業の皆様、世界中の企業の皆様、いつか私たちの祖国、東トルキスタンを再建することが出来たら、その時はぜひウイグルに会社や工場を作ってくださいませんか。〉

大事なことは、まず真実を知ること。ぜひ皆様にも、本書を購入して実際に読んでいただきたく思います。(小早)

編集後記

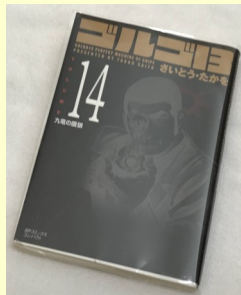
最強の暇つぶし

先日の強風で瀬戸大橋が通行止めになり、出張先のホテルで足止めを食らうことになりました。

パソコンのバッテリーも尽き、事務仕事をすることもできません。持ってきた本も、読了してしまいました。

定宿にしているそのホテルのリラックスルームには、『ゴルゴ13』が全巻揃っています。

こんなときの暇つぶしに、『ゴルゴ13』は最適です…。(小早)



飛鳥のつぶやき

雑クッキング

今年のバレンタインチョコは、長男と手作り！

「生クリーム？余ってもしょうがないから全部入れたれ(ドパー)」

という適当母と、板チョコを手で割り始めて数秒で

「あきちゃった」

とテレビの方に逃げていった飽き性長男の合作は、「どろどろした固まらない何か」になりました。

あれ？生チョコができるはずだったのにな？？(大概)



株式会社そうじの力

そうじで組織と人を磨く、
日本で唯一の研修会社

弊社は“そうじ＝環境整備”を通じ

た「企業風土改革」を支援します。

講義、実習、チームミーティング、計画作り、現場検証を通じて、社長と社員の意識改革を図り、健全な企業風土作りをお手伝いします。

支援期間は1年から。毎月1回訪問を原則としますが、状況とご要望に応じて、プログラムをオーダーメイドします。また各種団体向けの講演のご依頼も受け付けております。(全国対応)